



大工が経営感覚を磨く研修

「職人起業塾2015」のチアシ。すみれ建築工房代表の高橋剛志さんらが講師を務める

(資料：下も京阪神木造住宅協議会)

10月2日開講!
職人起業塾2015
6ヶ月コース全12回

第一期生 30名募集

日本一のモノづくりの根底を支える役割を担う
地域工務店の本来の強みは現場にあり!

最終的な評価、結果は全て現場にて取れます。職人、現場管理者に経営感覚を伴った成長を促すため、最終評価を基に次の実務を得られる現場に優秀な人材を育成していき、現場環境に左右されない強い経営体質を現場で実践する重要なポイントとなり、現場環境をより良く作り上げます。建築現場に従事する職人、現場のリーダー、実践研修を通じて、今まで行われてきたような常識改革、理論の習得、実践研修を必要とする、今まで行われてきたような従来型とは異なる研修を行い、高い人間力と経営感覚を持った職人、現場担当者へ育てる研修です。

マーケティング理論を理解し、顧客対応のスキルを学び、経営者感覚を身につけた職人、現場担当者は、現場作業以外でも活躍の場が広がり、将来に対するキャリアプランを持つことができます。職人不足が大々問題となる中、建築現場で働くことが将来に向けてのキャリアアップにつながるため、職人不足の根本的解決に大きく寄与します。

本研修事業は、今年度大幅拡充された厚生労働省の建設業・製造業の人材育成に取り組む事業主に対する支援として、認定実務経験者助成金に新設された、「ものづくり人材育成訓練(企業単独型訓練)」の活用を計画しております。

認定実務経験者助成金訓練計画、訓練実施計画の作成・提出や支給申請は、事業主が行う
※認定実務経験者助成金は中小企業600円、中小企業以外400円
※Off-JTの活用は中小企業800円、中小企業以外400円
※認定実務経験者助成金は中小企業700円、中小企業以外400円です。申請書作成のサポートも行ってください。

※認定実務経験者助成金は中小企業600円、中小企業以外400円
※Off-JTの活用は中小企業800円、中小企業以外400円
※認定実務経験者助成金は中小企業700円、中小企業以外400円です。申請書作成のサポートも行ってください。

● 職人起業塾2015の研修プログラム予定 (2015年10月2日～16年3月18日)

日程	内容	時間
第1講 10月2日(金)	オリエンテーション	3時間
	マーケティング基礎研修(1)「在り方がマーケティングの出発点」	4時間
第2講 10月9日(金)	大工職人、現場管理者のためのアクティブ・ブレイン・セミナー1日目	7時間
第3講 10月16日(金)	大工職人、現場管理者のためのアクティブ・ブレイン・セミナー2日目	7時間
第4講 11月6日(金)	マーケティング基礎研修(2)「スモールビジネスの鉄則」	4時間
	マーケティング基礎研修(3)「信用と信頼で将来をつくる」	3時間
第5講 11月20日(金)	コミュニケーション研修(1)「接遇の基本」	7時間
第6講 12月4日(金)	マーケティング基礎研修(4)「リスクマネジメントと日本式マーケティング理論」	3時間
	アクションプラン策定	4時間
第7講 12月18日(金)	リーダーシップ研修	4時間
	マーケティング基礎研修(5)「目的と手段の明確化」	3時間
第8講 1月15日(金)	コミュニケーション研修(2)「言葉遣い・電話応対」	7時間
第9講 2月5日(金)	問題解決プログラム(1)	7時間
第10講 2月19日(金)	問題解決スキルアップ研修(2)	7時間
第11講 3月4日(金)	コミュニケーション研修(3)「受命/報告/伝達/確認・ロールプレイ」	7時間
第12講 3月18日(金)	マーケティング検証研修	7時間

各回とも研修は午前10時から午後6時30分まで実施する

「職人起業塾2015」は、神戸市の工務店、すみれ建築工房が社員教育として長年行ってきた研修をベースにしている。

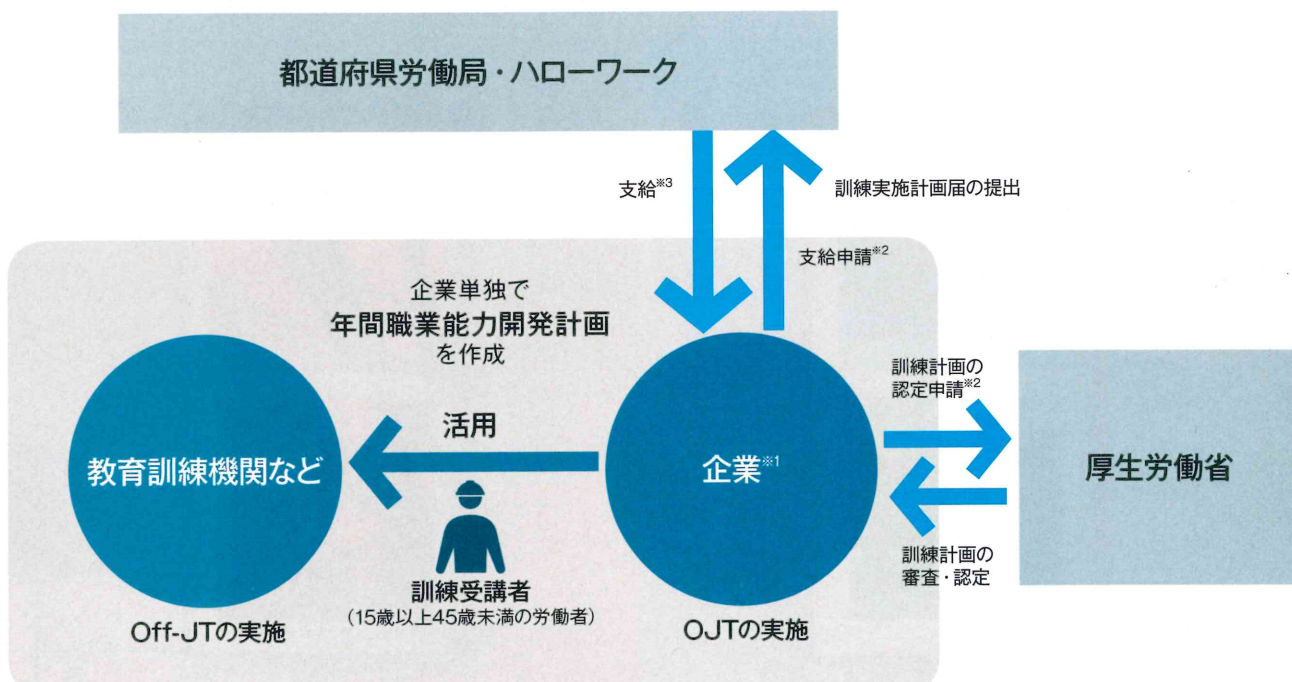
京阪神木造住宅協議会は、「高い人間力と経営感覚を持った職人、現場担当者」の育成を目的に、職人向けの研修「職人起業塾2015」を創設する。これからの大工は技術だけでなく、接客や電話対応といった社会人としての基本的なビジネススキルやマーケティングスキルを身に付ける必要があるとの考えからだ。

職人がマーケティングを学ぶ

これからの職人はマーケティングを学ぶ必要がある——。JBNの連携団体である京阪神木造住宅協議会はそうした考えのもと、職人が経営感覚を身に付ける研修を、厚生労働省の助成金を利用できるプログラムで10月から会員向けに開講する。

(田口由大ライター)

●ものづくり人材育成訓練(企業単独型訓練)の仕組み



- ・企業が教育訓練機関などを活用して、雇用する労働者に実習(OJT)と座学(Off-JT)を組み合わせた訓練を実施する
- ・企業が教育訓練機関などを活用して「年間職業能力開発計画」を作成する

※1 中小企業以外も対象

※2 認定実習併用職業訓練計画、訓練実施計画届の作成・提出や支給申請は企業が行う

※3 Off-JTの資金助成：1時間当たり中小企業800円・中小企業以外400円、Off-JTの経費助成：中小企業2/3・中小企業以外1/2、OJTの実施助成：1時間当たり中小企業700円・中小企業以外400円

(厚生労働省の資料を基に本誌が作成)

同社社長の高橋剛志さんは、会社立ち上げ時から「職人の社会的地位向上」を、自分自身が事業を続ける目的の一つに掲げていた。「そのためには職人自身が経営者と同じ感覚を身に付けなければならない(高橋さん)」というのが持論だ。

そこで同社は、自社の職人向けにマーケティングの勉強会を実施して、経営感覚を磨き上げてきた。現在では、契約後の追加・変更などの顧客対応、積算や協力会社の手配、現場周辺での営業などを職人が担当。新たな仕事も職人が取るので、専任の営業職が必要なくなったという。

こうした成果を聞きつけた協会の社の職人やほかの工務店などから勉強会への参加希望が増え、約2年前から「職人起業塾」として月1回、社外向けにも研修を実施している。

起業塾は講義形式ではなく、対話形式で行われる。こうすれば利益が上がるというノウハウを一方的に伝えるのではなく、参加者同士が与えられた課題について自分の意見や体験などを話し合い、その中から答えを見つけないという形だ。

京阪神木造住宅協議会が開講する「職人起業塾2015」は、すみれ建築工房で行っている起業塾の内容

に、問題解決プログラムやコミュニケーション研修などを加えたものだ。15年10月から16年3月までの6カ月で12回の講座を予定する。

「現場力」向上で生き残りを

この座学(Off-JT)の研修に、自社での実習(OJT)を組み合わせた訓練計画を作成すれば、厚労省のキャリア形成促進助成金で新設された「ものづくり人材育成訓練(企業単独型訓練)」に申請できる。受講料は1人当たり38万円(税別)だが、認定を受ければ、実質、自社の負担無しで受講できる仕組みとなる予定だ。

ただし、助成金の申請には厚労省が認める労務規定にのっとった就業規則や雇用契約書などが必要。研修をきっかけに大工の社員化を促進する狙いが厚労省にあるからだ。

高橋さんは「消費税率が10%に上がれば工務店の数は今の3分の1にまで減るだろう。そうした厳しい環境のなかで生き残るには、工務店の強みといわれる『現場力』を見直す必要がある」と指摘する。そのためには、経営者と同じ目的意識や経営感覚を持った職人の育成が重要だと訴えている。